

ふおーらむ

第13号



目次

巻頭特集

第18回「図書館サポートフォーラム賞」表彰式……………2

挨拶：山崎久道氏

表彰講評：水谷長志氏

受賞者挨拶

及川孝之氏

田川浩之氏

手代木俊一氏

文集

山内明子「俳句八句」……………13

大村英正「川柳・自由吟（雑吟）」……………14

小川千代子「旅するルイ・ヴィトン展」……………16

菊池佑「図書館界で最も遅れた分野の患者図書館にも
ご理解とご支援を」……………19

平井紀子「笠森お仙」……………22

水谷長志「不在者の映画 いまここにいないあなたを想うことで
私たちは繋がれる―是枝裕和と小津安二郎の作品から」…25

編集後記

第18回図書館サポートフォーラム賞授賞式

於／2016年4月18日(月)

喜山倶楽部光琳の間(日本教育会館内9階)

た三つを柱にして、本日会場にいられている末吉哲郎、元代表幹事のご発案で始められた賞でございます。

今回はそれぞれ非常に高い貢献をされたお三方、図書館におけるレファレンス活動、あるいは専門分野の重要なデータベースの構築、あるいは図書館活動に関係した地味な分野ではあるが重要な出版活動を続けられた方々を表彰させていただくことになりました。おそらくこういった方々の活動がもつともっと世に知られて発展すれば、日本は「情報貧国」でなくなると思います。そういった汚名はいつか必ず返上できるものと思っております。

表彰選考の内容についてはこの後表彰委員長より詳細をご説明いただきますので、私からは省略させていただきます。

どうもありがとうございました。

1. 挨拶

山崎久道氏

(図書館サポートフォーラム代表幹事)

図書館サポートフォーラムの代表幹事を仰せつかっております山崎久道でございます。

ご案内のとおり、先週熊本県を中心にした九州地方で大きな地震がおきまして、大変な被害が続いております。謹んで被災された方々にお見舞いと、亡くなった方のご冥福を心よりお祈りさせていただきたいと思えます。

またそれに関連して図書館の状況が気になります。熊本市内で「当面の間休館します」という図書館もある一方で、中には市役所は倒壊してしまったのに時間短縮をして開館している図書館もあって、図書館員の方々がたゆまず活動されていることに深く敬意を表したいと思えます。

さて図書館サポートフォーラム賞も今回8回目を迎えることになりました。この賞のコンセプトは、三点に要約できるかと思えます。

1つ目は、図書館において、非常に地道な活動や専門性を発揮されてきた方々や組織の成果を表彰させていただくということが、第一のポイントとなっております。

2つ目は、図書館の活動、あるいは図書館に類似する文書館とも含めてと思いますが、社会に対して広く訴える、あるいはそういった活動に貢献された方を表彰させていただくというのが、第二のポイントとなっております。

3つ目は、図書館の国際化というものに非常に貢献された、例えば国際支援とか、あるいは国際的な交流活動、もしくはその中における日本の地位を高めることに貢献された方を表彰させていただくというのが、第三のポイントとなっております。

大体この専門性、社会的意義、国際貢献といっ

2. 表彰講評

水谷長志氏

(表彰委員会委員長)

図書館サポートフォーラムの表彰委員長をしております東京国立近代美術館の水谷と申します。よろしくお願いいたします。

早速ですが、第18回図書館サポートフォーラム賞の表彰結果について、ご報告いたします。

今回は、図書館サポートフォーラムの会員および事務局より、個人7名、団体4件の総計11件の表彰候補が推薦されました。

この数は昨年の10件よりも1件多い推薦数でありまして、このところ引き続いて、表彰候補の数は上向いております。

今年もまた、いずれの個人、団体についても、図書館員および図書館の外から図書館をサポートされ、図書館活動を推進するお仕事をされていて、いずれも高い業績と評価をすでにお持ちの方々でありました。

選考は3月17日、大森の日外アソシエーツにおいて13名の出席幹事による投票および2名の不在幹事の通信投票によることとなりました。

出席・不在のあわせて15名の幹事による投票が行われました。昨年にも増して投票の結果は拮抗しておりましたが、厳正かつ公平な選考

経過の結果、この度の第18回図書館サポートフォーラム賞は埼玉県立久喜図書館様、田川浩之様、手代木俊一様の一団体とお二人様が受賞されることになりました。

では、順に第18回図書館サポートフォーラム賞の表彰理由について述べさせていただきます。

まず最初に、団体表彰として埼玉県立久喜図書館様の表彰理由を読み上げます。

○埼玉県立久喜図書館

埼玉県立久喜図書館は国立国会図書館レファレンス協同データベースの最初期より参加し、県内の他の県立図書館と連携しながら多分野にわたるレファレンス事例を登録し続け、今日、自他ともに「日本一！」を誇る成果を提示している。数値的に見るならば、平成26年度末において、累積登録点数「25,962」、年間登録点数「1,277」、被参照件数「2,017,711」となっている。国立国会図書館のWebサイトで「データ総登録数15万件突破記念ページ」は平成27年7月に公開されているが、久喜図書館は実にその約17%超を担ってきたことになる。ちなみに平成27年3月時点の参加館は656館。埼玉県立久喜図書館のデータ被参照件数は、国立国会図書館を除き、平成20年度より8年連続全国一、累積登録点数は国

立国会図書館に次ぎ、第2位である。このような実績を支えている理念は、埼玉県立図書館が重点目標の一つである課題解決支援機能の強化として県民の専門的な調査研究活動を支援するため、レファレンスサービスを推進することとして、レファレンス活動は県立図書館の使命を良く示しており図書館サポートフォーラム賞にふさわしく、高く評価して表彰するものである。

私自身は埼玉県の図書館とはわずかではございますがご縁がありました。本務の独立行政法人国立美術館の理事を介しての依頼だったかに記憶しておりますが、2014年の春から夏にかけて4回にわたり開かれました「[埼玉県]新県立図書館在り方検討有識者会議」に委員の一人として出席させていただいたことがあります。その会議の席では、美術館の中のアートルイブラリの経験から、新しい県立図書館へ期待するイメージを語る機会もいただいておりますが、結果としては、日本図書館協会の『図書館雑誌』の2015年7月号に前埼玉県立図書館協議会会長の小笠原清春氏が、「埼玉県立浦和図書館閉館をめぐるあれやこれや」という記事をお書きのように、結果は、県立浦和図書館を閉じて、「社会科学と歴史・哲学」の熊谷図書館、「自然科学と芸術・文学」の久喜図書館

す。

次いで、金沢文圃閣代表の田川浩之氏の表彰理由を読み上げます。

○田川浩之氏（金沢文圃閣代表）

田川氏は北陸の古都金沢において古書店を営むとともに、書籍・出版・図書館・書誌・戦時期文化史資料などに関わって他にない出版活動を展開している。特色的な数例を挙げてみるならば、出版・書誌・書物メディア史の「文圃文献類従」には、田川氏ご自身の解題になる全2巻の『出版情報（戦時占領期出版関係史料集）』、天野敬太郎の「書誌の書誌」を完結せしめた『日本書誌の書誌―社会科学編（主題編3）』があり、「図書館学古典翻訳セレクション」には、ガブリエル・ノード『図書館設立のための助言（品切）』やピアス・パトラー『図書館学／印刷史著作集』ほかの藤野幸雄父子による訳書がある。ちなみに故藤野幸雄氏は2009年第11回の本賞を受賞されている。さらに2001年第3回本賞の受賞者である深井人詩氏の先導によって2001年以來の年刊書誌雑誌『文献探索人』、そして『文献探索人叢書』の刊行を続けられるなど、図書館員による書誌・年譜編纂の成果公開のための貴重な場を提供していることは、図

書館員の自己研鑽へ向けての大きな支援、エールであると考えられる。この事業自体、図書館の外から図書館と図書館人をサポートする、まさに図書館サポートフォーラム賞にふさわしく、高く評価して表彰するものである。

図書館サポートフォーラムが年に一度出す同人誌の『ふおーらむ』に私自身と金沢との縁について書いております。若き日を過ごした金沢は私にとつて、ほかに代えられない大切な思い出のこもった土地であります。さらには恩氏の藤野幸雄先生が奥様とともに晩年を過ごされ、そして身罷られた土地であり、金沢文圃閣様から多くの訳書をご子息の寛之さんと出されていることもなにかの繋がりのように感じられます。というような個人的感懐はさて置いて、金沢文圃閣、田川様のお力によって刊行された、本と図書館とそして日本近代文化史、政治史にまでおよぶ多くの書籍のラインナップには瞠目すべきものがあるのは、ここにお集まりの多くの方々が共感されるところかと思えます。加えて、図書館員による書誌・年譜の公表の機会を『文献探索人』『文献探索人叢書』という出版形態でもって提供されていることの意義は、繰り返して声を大にして伝えなければならぬ業績であると思えます。もちろん本日、田川様に代わってご臨席の深井人詩先生のお導きあつてのこと

の2館体制に落ち着いたのであります。この有識者会議は新しい県立図書館を作るのではなく、2館体制を敷くために用意された有識者会議だったのか、などといささかの懐疑をしたこともございますし、ある種の空漠感を持つてこの記事を眺めていたことも事実でした。さまざまな事情あつてのことと推察いたしますので、これ以上言及することもないのでありますが、そのような状況であつたとしても、いま表彰理由においてお伝えした埼玉県立久喜図書館、というよりは、埼玉県の公共図書館のレファレンス業務への取り組みが、このような事態の推移の中においても変わることなく継続され、一層の成果を挙げられたことに、あらためて敬意を表したいという思いが強まるのであります。新図書館というハコを作ることに比べたら、レファレンス・ワークは市民への訴求力は強くないのかもしれませんが、図書館員自体も、いまレファレンスの意義をあらためて再確認することは、難しいことかもしれません。そのような環境にあつての、この継続は、ある意味、県立図書館の機能を見直す格好の事例であると言えるかもしれません。そのように、図書館界に一石を投じるものとして、私たちは埼玉の図書館の今後を注意深く見守る必要がありますし、この賞を出す者の、授章者としての責任もまた認識しなければならぬのだと思ひ直しております。

かと推察いたしますが、書誌や年譜は作るだけではほとんど意味がありません。書誌や年譜は、活字化し、版面を作り、公表、刊行することが大事です。なぜならば、書誌・年譜の成否、価値の多くの部分は、いかに個々の記述をレイアウトするか、排列するか、見やすく使いやすいページを作るかが肝要なのですから。「書誌の書誌」の天野敬太郎先生もそのように述べられていたと記憶いたします。ですので、公表されて人の目に触れて、そして使われて、誤りは必ずありますから訂正されて、さらに編者ご自身でも他者であれ、いずれでも良いのですが、書誌や年譜は、いつか前作が凌駕されてこそ、価値があるのです。そのためには公表する場、メディアが必要で、それを提供し、維持して下さっている金沢文圃閣様の事業は、まったくもって他に例を見出すことのない貴重なものであり、外から図書館と図書館員をサポートされている、といつも感服し、感謝しているのであります。

最後に、立教大学立教学院史資料センター員／元・フェリス女学院大学附属図書館の手代木俊一氏の表彰理由を読み上げます。

○手代木俊一氏（立教大学立教学院史資料センター員／元・フェリス女学院大学附属図書館）手代木氏は中央大学文学部哲学科を昭和48年に卒業され、神戸女学院大学、フェリス女学院大学、国際基督教大学、立教大学、明治学院大学など多くのキリスト教系私学の図書館あるいは研究資料センターに勤務され、勤務のかたわらキリスト教礼拝音楽学会の発起人の一人となり、機関誌『礼拝音楽研究』を創刊、日本近代史における讃美歌、聖歌史研究の書誌等基礎資料の編纂と研究成果の公表に多大な業績を残されている。特に2010年に刊行

ならず日本近代史研究に広く活用され得るべきものと言えるのであり、長年にわたる研鑽は優れた図書館員の姿勢の典型として図書館サポーターフォーラム賞にふさわしく、高く評価して表彰するものである。

の『日本讃美歌・聖歌研究書誌』は、明治初期に遡って同主題の網羅的書誌として類例のない業績である。例えば、冒頭にある書誌の一項、いささか長いのであるが、を紹介するならば、1880年（明治13年）、「Suggestions for a Japanese Rendering of the Psalms」 Basil Hall Chamberlain, 『Transaction of Asiatic Society in Japan』Vol. 8, Pt. 3（4月）[B. H. チェンバーレン 詩篇日本語訳への提言及び試訳『讃美歌』へ韻文訳詩篇』手代木俊一訳『フェリス女学院大学音楽学部紀要』第1号（1995年1月）、『讃美歌・聖歌と日本の近代』（音楽之友社1999年11月）に改定収録』というものであり、その精緻さ、時間の掛けようは容易に理解されるであろう。本書誌は音楽史のみ

私自身は、讃美歌とか聖歌とかにはほとんど縁なく育ちましたが、息子がカトリック系の小中高の一貫校に通い、小学校の2年から卒業まで、聖歌隊に入っていて、当時はNHKの合唱コンクールでも連続して優勝を重ねていた中で、ベンジャミン・ブリテンの「キャロルの祭典」などを歌っていたのを不思議に感動しながら聞いていたくらいにしかご縁も知識もないのですが、推薦者からご提供の『日本讃美歌・聖歌研究書誌』のコピーでそのお仕事の一端を拝見し、これはただ事ではない書誌であることは認識できました。そもそも音楽図書館のライブラリアンというのは、当然のごとく楽譜が読める方ではないと務まらないのだと思いますが、手代木氏の例えば、『礼拝音楽研究』の2014年の14号に掲載の論文が「琉球語讃美歌史―ベッテルハイム、伊波（いは）普猶（ふゆう）、新垣信一を中心に」であったりして、その調査と知識の広大さに畏怖の念を覚えるばかりであります。推薦者の言葉に、「図書館員がルーティンワークに埋没せず、その職場環境を活かして専

門分野を見つけ、着実な資料収集と資料研究の成果を公表することによって当該分野の研究基盤を固め」とありました。まさに手代木氏のお仕事はこの評言に相応しいのですが、浅学にして私には付け加える言葉はありませんが、手代木氏の受賞が、「図書館員がルーティンワークに埋没せず」にはいられない、現今、ただいまの事態の真ただ中にある現役の図書館員への大きな刺激とエールになれば、この賞の価値もさらに高まるのだと信じています。

第18回を迎える図書館サポートフォーラム賞も、この賞の三つの柱にかなって、長年の研鑽と国際性、そして図書館のあることの意義の発露顕現をよく示すお二方と一機関に受賞いただきました。今回、例年になく多彩な受賞者を得ましたこと、表彰委員長として、ことのほか嬉しく思っております。

以上をもちまして、簡単ではございますが、今回の図書館サポートフォーラム賞の表彰者のご紹介とさせていただきます。ご静聴ありがとうございました。



3. 受賞者挨拶

埼玉県立久喜図書館

(及川孝之館長)

埼玉県立久喜図書館、館長の及川でございます。

まず、先週4月14日からの熊本県、大分県の地震により、大変な被害が続いております。被災された方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧をお祈り申し上げます。

さて、この度は、図書館サポートフォーラム賞という栄えある賞をいただき、誠にありがとうございます。私ども職員一同、大変光栄に思っており、重ねてお礼申し上げます。

埼玉県の県立図書館は、熊谷図書館と私ども久喜図書館の2館体制でございます。先月の3月23日から、この2館で新たなスタートを切ったばかりです。

このような時期に、受賞できましたことは、私どもにとりまして大いなる励みとなっております。

埼玉県立図書館の変遷を簡単に申し上げますと、平成14年度までは、浦和、熊谷、川越、そして久喜の4館体制のもとに、地域分担型で運営しており、各図書館で、事務用としてレファレンス記録のデータを蓄積しておりました。

一方、平成8年ごろから、埼玉県も御多分にれず、「県立図書館のあり方を見直そう」ということになりました。今後の在り方を検討しておりますが、この間、市町村の図書館の整備が進んできたこともあり、県立図書館の再編整備も合わせて検討されました。

その際、これまでの地域分担型の運営から、主題別の専門図書館、言い換えますと資料を分

担分野別にした図書館に再編することになりました。これが、平成15年度のことです。

その後、様々な経緯があつて2館体制となり、現在、熊谷図書館では、「社会科学、産業、人文科学」等の分野を担当するほか、ビジネス支援サービスや地域行政サービス等に力を入れております。

そして、久喜図書館では「自然科学、芸術、文学」等の分野を担当するとともに、子供の読書活動の推進や健康・医療情報サービス、障害者サービスに力を入れているところです。

話が県立図書館の紹介となつてしまいました。平成15年当時、当館では、この主題別図書館という特徴を生かした新たなサービスを模索していたところに、国会図書館レファレンス協同データベース事業の事務局様から、事業参加のお話をいただきました。

当館では、このお話をお受けして、「国立国会図書館レファレンス協同データベース事業」の事務局の方のご指導により、他の県立図書館と連携しながらレファレンス事例を集約・整理し、平成16年3月にレファレンス事例データの一部を登録して参加館となりました。

そして、翌年の平成17年12月までに、これまで蓄積してきたデータ約5,500件、新規のデータ約300件を登録し、県立図書館のレ



ファレンス事例データがウェブサイトに公開されるに至りました。

「レファレンス協同データベース」上で、当館のレファレンス事例が公開されますと、他の図書館や一般の方から登録事例についての情報提供がございました。

レファレンス回答時には出版されていなかった新しい資料や、当館では所蔵がなく未調査だった資料の情報、時には個人の体験による情報もお寄せいただきました。

いただいた情報は、典拠を確認して追記しており、一度完結したレファレンス事例をブラッシュアップすることを可能にしているのが、この事業の効用の一つと思っております。

また、先ほど当館の表彰事由として被参照件数が、国会図書館を除き、8年連続全国一というご紹介をいただきましたが、昨年度は、約345万件のアクセスがございまして、多くの方にご覧いただき、調査研究に役立つこととは、職員の励みとなっております。

そこで、当館の一般公開事例で、最も多くの方にアクセスいただいている事例を紹介させていただきますと、「右利きの人と左利きの人の割合を知りたい」という事例です。この調査結

果を申し上げますと、右利きの人の割合は90%以上ということがわかります。

詳細は「レファレンス協同データベース」でご覧いただくと、さらにこの事例のアクセス数が増えますので、是非ともご覧ください。

埼玉県立図書館運営の基本方針の一つに、専門的な資料・情報や地域資料等を収集、蓄積し、県民の調査研究に対する支援機能を充実するという項目がございます。

本日の受賞は、これまで埼玉県立図書館が一体となって取り組んだレファレンスサービスの活動が高く評価されたものと改めて感じているところです。

図書館のレファレンスサービスの利用が更に多くなるよう、この受賞を機に図書館サービス、及びレファレンスサービスのより一層の充実に努めてまいります。

本日は誠にありがとうございます。

田川浩之氏

(金沢文圃閣代表)

このたびは裏日本の出版社である私も金沢文圃閣を表彰いただきまことにありがとうございます。

ご推薦の通り近代書誌・書物学の文圃文献類従シリーズ、天野敬太郎『雑誌新聞文献事典』『日本書誌の書誌—社会科学編(主題編3)』、藤野幸雄・寛之(父子)『訳図書館学古典翻訳セレクション1〜7』、年刊雑誌『文献探索人』・個人選集『文献探索人叢書』などを刊行してまいりました。

出版事業には、誠に厳しいものがありますが、



このたびの表彰を大きな契機に一層努力を重ねて参る所存でございます。ご推薦に重ねて御礼申し上げます。

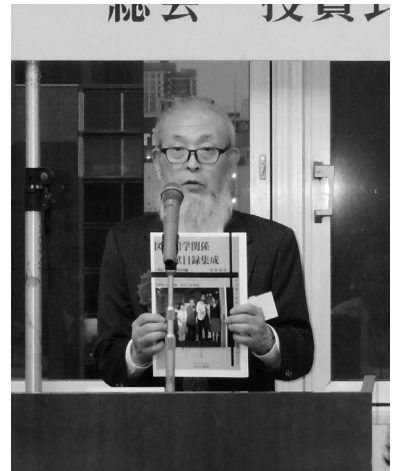
1999年9月に金沢文圃閣は創業し、初めての出版物として『雑誌新聞文献事典』を刊行しました。それは同時にいまだ成立が困難な近代書誌学の基礎形成に寄与することを目指した資料集・文圃文献類従シリーズのはじまりでもありました。刊行趣意は次のようなものです。全文です。

「パソコン・インターネットによるデジタル検索は、確かに調査の手間を省力化することに多大な力を持っています。

しかしいま現在、ネットデジタル検索に「のっかってこない・ひっかからない」書誌情報も当然のように存在しています。

それらを調べることは、いよいよ今後困難になっていくかも知れません。また増え続けていく膨大な情報の中から、自分にとって必要な情報をいかにセレクトしてくるかという技術も、ますますこれからの日常生活において必要とされてくるのではないのでしょうか。

そのような際の参照すべき原点として、私たちは近代を対象とする書誌・情報学の成果をもっていきます。



代理出席の深井人詩氏

それらは「埋もれた」ままで活用・継承されているとは言い難いのがおそらく現状であり、それを継承しデジタル情報検索のこれからに生かしていくことが金沢文圃閣の願いです。」

あれから十七年、金沢文圃閣は近代書誌学の基礎形成に寄与するためにいまだ必死になっているという状況です。はたからご覧になれば心身を酷使してとても哀れに見えていることかと思えます。このような表彰を受ける方は、ある程度余裕をもった状況にいらつしやることが通常かと存じますが、金沢文圃閣におきましてはほど遠い現状です。出版企画にも本作りにも販売営業にもまだまだ至らぬ点多く、日々懊悩です。

いまだ途半ばのこのような小閣に、今回の表彰を与えてくださった図書館サポートフォーラ

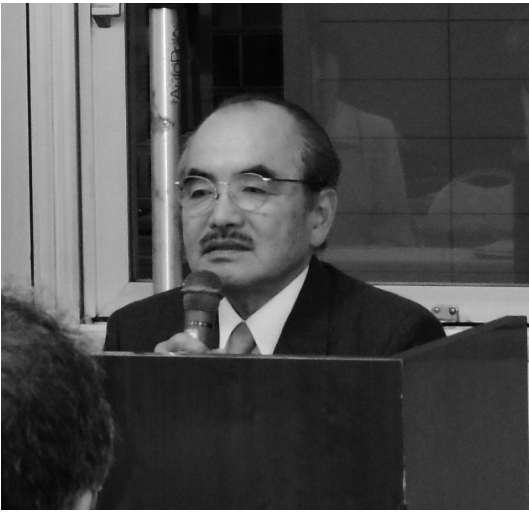
ム事業にあたられている皆様方の度量の深さにあらためて感謝申し上げます、今後もお悩み考えながら活動を継続いたします。

手代木俊一氏

(立教大学立教学院史資料センター員)

元・フェリス女学院大学附属図書館)

ただ今ご紹介いただいた手代木（テシロギ）です。図書館サポーターフォーラムから表彰されたことを光栄に思います。現在わたくしは紹介されるべきなどで、「讚美歌史家」と呼ばれていますが、1973年から1998年までずっと図書館員でありましたし、フェリス女学院大学退職後も書誌作成、レファレンス等でわたくしなりに図書館活動をしていたつもりでした。そのことが評価されたことをうれしく思います。



す。

もう一つうれしく思ったのは、わたくしを推薦して下さった人（松下鈞氏）がいたということでした。わたくしが松下さんとお会いしたのは25歳のときで、もう40年以上になります。1998年の退職後からは年賀状と拙著をお送りするくらいで、ほとんどお会いしていないのによく覚えていて下さったと思います。ありがとうございました。

ここからも個人的なことを話させていただきたいと思います。

先ほど申し上げましたようにフェリス女学院大学退職までずっと図書館員であり、それも音楽学部の図書館に勤務しておりました。松下さんとお会いした25歳のとき、当時は神戸女学院大学の音楽学部図書室におりました。このとき関西の音楽大学、東京を中心とする音楽大学、音楽学部を有する大学の図書館を見学する機会があたえられました。最後の最後に見学したのが、国立音楽大学の図書館でした。見学しておどろいたのは、館員がすべて若い人ばかりでした。そしてその中心の事務室長（当時は主任司書）の松下さんはどうみてもわたしより4、5歳年長としか見えませんでした。女性もお茶くみなどせず、館員は書誌作成等図書館活動の第一線を担っている感を受けました。それまで見学した図書館の年功序列の人事とはいささか異

なっており、わたくしもこんな図書館員になりたいものだと思います。

1980年、32歳のとき横浜のフェリス女学院大学音楽学部図書室（当時短大音楽科研究図書室、後大学図書館別館）に勤務することになりました。わたくしは古いタイプの図書館員で図書館員は一つの専門分野を持つべきだという考えをもっておりました。フェリス女学院大学は、キリスト教系で音楽学部と文学部を有する大学で、キリスト教、文学、音楽の三つの領域を重ねると「讚美歌」ということになりました。

松下さんからも、「フェリスは讚美歌だな」と言われてまいりました。ということで讚美歌資料を収集することになりました。ところが集めはじめると横浜は震災と戦災で紙の資料はほとんど残っておりません。そこで情報を資料化するということをはじめました。所蔵情報等でどこに何があるかは判りますので、その資料をコピーさせていただきました。フェリス女学院大学へ行けば、コピーではあるが、讚美歌のことは時代、教派をこえて何でも調べられるということを目指しました。

ところがある機関から、「ここで見るることができるのになぜコピーを渡さなければならぬのか。それに誰が讚美歌の研究をしているのか」と、言われました。資料が集まり宝の山になってきていることが判っていたので、しかも紀要

(当時は短大論叢)に執筆者を募っており、機会が与えられたので讃美歌に関する論文を書くことになりました。また讃美歌書誌も作成いたしました。

これも松下さんの著作の中の言葉で、正確には覚えていませんが、「需要が供給を生むのではなく、供給が需要の原動力になる」。讃美歌資料を集め、讃美歌について論文等でこんなに讃美歌は面白い、日本のキリスト教だけでなく、日本の音楽、文学、日本文化そのものに大きな影響を与えていることを論文、研究会、セミナー等で発表し、またセミナーの実行委員になり、フェリス女学院の存在意義を示していく方向をめざしました。その後キリスト教とは関わりがない、音楽史研究者、文学研究者も訪れるようになりました。

ここで問題になったのは、図書館員でありながら、論文を書き、様々な機会に発表し、セミナーの実行委員になるということでした。わたくしの中ではこれらは図書館活動の一環として思っていたのですが、日本の多くの大学図書館員は事務職で、他の事務職の方々から違和感をもって受け止められました。事務職なのに論文を書いていることが問題になり、図書館員でいることがむずかしくなりました。音楽学部図書室(図書館別館)が本館に吸収される際に、退職し研究者をめざすことになり、キリスト教系

大学の研究調査員になりました。

わたくしには著作が6点ありますが、うち3点は書誌で、その中の2点は退職後の作成です。また退職後も讃美歌に関するレファレンスはすべてお答えいたしましたし、これからも受け止めるつもりです。

図書館から出たため資料がそばになく、レファレンスに即答できなくなりました。そのため讃美歌資料、周辺資料をそろえるようにしてきました。今ではかなりの量になり、日本有数のコレクションといえると思います。今後この資料をどうするかを検討中です。すべて一括して受け入れて下さる機関があれば幸いと考えております。

個人的なことばかり話してまいりましたが、これを第18回図書館サポートフォーラム表彰式でのご挨拶とさせていただきますと思います。ご清聴、ありがとうございました。



俳句八句

山内 明子

朴念仁バレンタインデー休むなんて

角打ちの肴鯖缶四温なる

茹でたての走りそら豆皮ごと食ふ

着て帰る服吊しあり海女の小屋

初めてのをんなと言はる海鞘二個食ひ

五日間尻さはり今日白桃食ふ

秋の夜の電話君から切ってくれ

吊し柿均しをくなり一つ盗り

川柳・自由吟（雑吟）

大村 英正

二十、ためらわず肛門婦人泌尿器科

この句は第九回健康川柳大賞（二〇一五年十一月）入選作

二十一、LCCもつと安けりや立って乗る

二十二、出社拒否登校拒否と仲直り

二十三、会議後の赤ちようちんが本会議

二十四、読破した感覚乏し電子本

二十五、披露宴性格だけを誉められる

二十六、年賀状未だ生きてると卒業翁

二十七、一票の用紙重さはみな同じ

二十八、支え合う絆瓦礫は寄り添わず

二十九、身を切らず民を切るのが消費税

三十、風吹けば桶屋の理屈復興費

三十一、原発の隣りはいかか社長宅

三十二、いさかいても嫁稼いでは減り

三十三、公約に無かった増税のみ成果

三十四、但し書小さく書いて大手振り

三十五、僕の妻福島産だが美味安全

三十六、親を捨て子に捨てられて保護費増え

三十七、中韓でなくて良かった両横綱

三十八、日中で井戸を掘る人涸らす人

三十九、やるやらぬ逆に読むのがマニフェスト

四十、人選で出たり消えたり活断層

- 一、優先席、茶髪、長髪、おさげ髪
 - 二、背番号よりも欲しいが安心感
 - 三、スピーディー大金かけてスローリリー
 - 四、東北産食べぬ口から出る絆
 - 五、風邪シーズン鼻低くともマスク美女
 - 六、老人会、年金病気孫で暮
 - 七、今度こそ不正見出せ内視鏡
 - 八、トキと民どじょうに命まかせてる
 - 九、机上戦防衛大臣板に水
 - 十、北京より都知事恐くて動く国
 - 十一、五輪後も日中日韓日口戦
 - 十二、格下に負けて腹いせ腕四本
 - 十三、聖職もローンもあるし腹も減る
 - 十四、春なのに日中日韓冬景色
 - 十五、居座りも新たな枝かやわら道
- この十五句は平成二十四年二月から平成二十五年三月、朝日新聞「千葉笑い」欄に掲載していただいた拙作である。

「千葉笑い」とは広辞苑によれば、千葉市中央区の千葉寺（せんようじ）で江戸時代に行われた習俗。毎年大晦日の夜人々が集まり、顔を隠し頭を包み声を変えて、所の奉行、頭人、庄屋、年寄たちの善悪を言いたて、また行状の悪い人に対して大いに笑い、褒貶（ほうへん）した、とある。

十六、憲法が閣議の僕となる日本
十七、道徳に点数つける不道徳

この二句は第十回全国時事川柳大賞誌上大会（二〇一四年の出来事）入選作

十八、総活躍じっと手を見る白寿翁
十九、政治から理性品性知性消え

この二句は第十一回全国時事川柳大賞誌上大会（二〇一五年の出来事）入選作

この二十句は平成二十四年十一月から平成
二十五年九月東葛川柳会機関誌「ぬかる道」の
「とうかつメッセ」に入選作として掲載してい
ただいた拙作である。

(禁句) 作者より選者の好み川柳欄



旅するルイ・ヴィトン展

小川千代子（国際資料研究所）

も見ていた。

展示場は写真取り放題！しかし、展示ケースの木枠を含め展示物なので手を触れないで、と監視員たちに三回も注意されました。ガラスケースの中には企業のアーカイブがあつ



東京・紀尾井町のルイ・ヴィトン展会場入り口（筆者撮影）

2016年5月18日、「旅するルイ・ヴィトン展」を見学した。企業アーカイブは企業の未来にどんな役割を果たすかが、見学に際しての筆者の着眼点であった。「旅するルイ・ヴィトン展」とは、展示そのものが世界各地を回る、という意味かと思ったのだが、考えてみればルイ・ヴィトンといえはバッグ、それも旅行鞆の老舗である。だから、旅を演出する鞆や靴や服などを手掛けたことも意味していたと、展示を見て理解。

着眼点とした企業アーカイブは、展示の中にちゃんと位置づけられていた。企業ルイ・ヴィトンの記録は時を経てその企業の信念や品格を代弁することが見えた。見た目は茶色く変色した昔の書類など、実に地味の極みではあるけれども、記録が作られたその時、仕事した人たちの熱意とか、意気込み、こだわりや、仕事への誠実な取り組みが、その紙そのものにも、その上に残された手書きの文字にも、タイプ文字に



旅するルイ・ヴィトンの鞆たちと説明員

て、ゆっくり読みたかったけど、ケースの枠によりかかり、向こうのほうを読もうと体をガラスの上に乗れ出すと「触れないようにお願いします！」と注意されて、困った、困った。

ドレスのコーナーに展示されていたのは写真右から、エリザベス・テイラー、キャサリン・ヘップバーン、グレタ・ガルボのそれぞれのドレス。バイアスチェックでたっぷりとしたスカートの

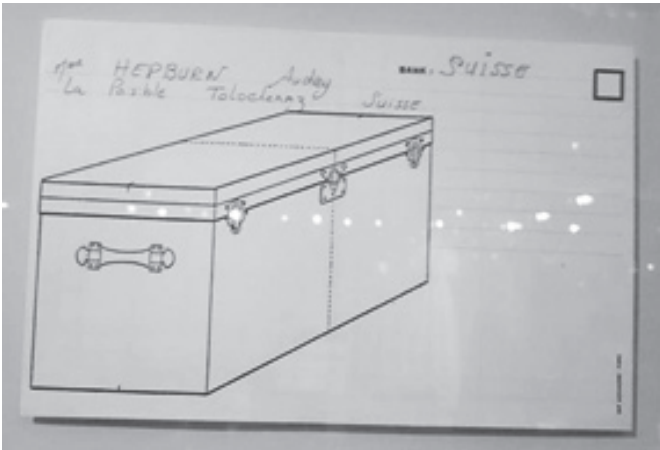
エリザベス・テイラー、ベージュのスラリとしたシルエットはキャサリン・ヘップバーン、黒のピロードにきらきらとした縁取りはグレタ・ガルボ。どれも着る人の個性を引き立てている。衣装から本人を彷彿させるところに感銘を受けた。



ルイ・ヴィトン顧客カードの展示は、圧巻だった。壁に取り付けたケースには、数十枚の顧客カードが掲出されていた。このコーナーの説明

員らしい若い女性に声をかけられた。

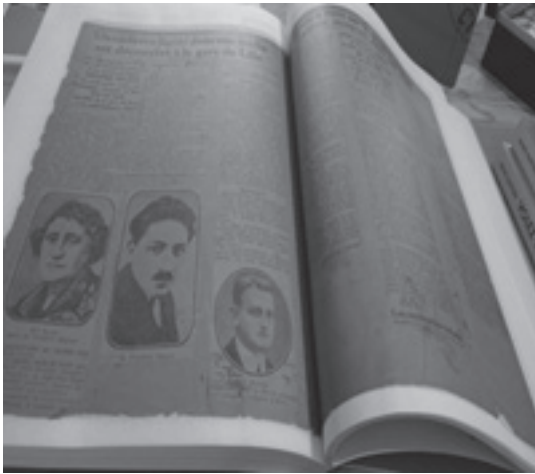
「顧客カードには、オードリー・ヘップバーンのものがあります。オードリー・ヘップバーンはルイ・ヴィトンがとても好きだったということですよ。」確かに、オードリー・ヘップバーンの顧客カード（左写真）があった。四角い箱の見取り図が記され、右肩の *bank* 欄には赤いボールペンで *swiss* とあった。でも、故人のカードはもはや個人情報でもないのだろうか。ジャン・ファビエ氏（歴史学者でアーキビスト、



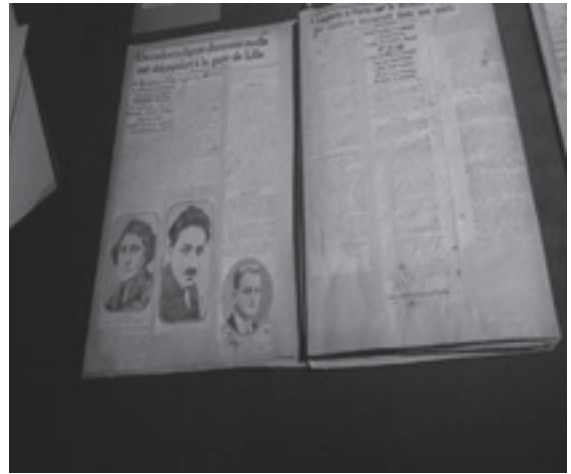
1989年に来日。当時フランス国立文書館長でICA会長、2014年没）が来日講演の折「フランス人は他人のことは知れたがり、自分のことは知らせたがらない」と言っていたことが思い出された。

別のコーナーには後藤象二郎のカードがあった。こちらは1883年1月とか書いてあるみたいだったが、あまり丁寧に見ていると、また「展示ケースも含めて展示品ですから触らないように」と注意されてしまうのかと心配になり、ゆっくり見られなくて残念。考えてみると、そのあたり通常の博物館展示とはずいぶん違う。企業が自らの所蔵資料を見せるというのだから、私たちはあくまでも見せていただく立場というものなのだろう。

展示されたアーカイブ資料の中で強い印象があったのは、昔の切り抜きスクラップブック。これは、入り口わきのシヨップに山積みされた刊行物販売コーナーに置かれた本にも複製が収録されていた。そして、その収録方法が、さすがルイ・ヴィトンだった。日本のアーカイブ世界では影印本や、カラーグラビア、さらにはデジタルアーカイブによるアーカイブ資料の複製はしばしば目にする。だが、ヴィトンが見せてくれたのは、こうしたイメージを遙かに凌駕する迫真の出来映えのレプリカだった。まさに、脱帽。



作品集に組み込まれたレプリカ



展示されたスクラップブックのオリジナル

なお、この展示は入場無料、予約申し込み制だった。入口では、ケータイのバーコードを担当者がチェックしていた。飛行機に乗る時とよく似たチェック体制だった。こんなところにも、「旅するルイ・ヴィトン展」の演出があるのかな。そんなところがとてもおしゃれ！

それにしても、ルイ・ヴィトンの様々なバッグが時代を超えて収集され展示されていて圧巻。バッグを作るところから、旅行鞆の製作、旅そのものの演出にも影響を与えたルイ・ヴィトン。知らない世界を垣間見る機会に恵まれて、とても楽しい展示であった。

図書館界で最も遅れた分野の患者図書館にも

ご理解とご支援を

菊池 佑

を理解するものの、積極的な研修支援をする病院は少ないということは否めない事実である。

△患者図書館運動42年とその道筋▽

運動の道筋としては、当初つまり1970年代と80年代は患者図書館を知る人が図書館員も含めて絶対数が少ないために「啓発」に力を入れ、ボランティア担当の患者図書館も積極的に紹介した。その後、担当者が院内の医学図書室担当職員の兼務も含めて全国的に増えてきたので、1990年代からは「量」の拡大から「質」の確保の段階に入った。つまり司書担当の患者図書館を増やしていくことである。

△日本で最初の専従の患者図書館担当の患者図書館誕生▽

2002年、静岡県立静岡がんセンターに専従司書担当では日本で最初の患者図書館が誕生した。設計段階から私が参画し、初代の患者図書館司書として勤務の機会を与えられた。

1階の玄関付近で売店近く病院内では最も人目に付きやすい場所にある。館内貸出だけでなく、ブックトラックで病棟・病室巡回による貸出も毎週行う。また病室の液晶パネルからは患者図書館の蔵書検索も可能。ホスピス病棟にも貸出も行うなどきめ細かい図書館サービスを提供している。

△はじめに▽

先日ある公共図書館の職員と話をして大きな衝撃を受けた。人口6万の市立図書館に司書資格所持者は1人もいないという。役所からの異動で3〜4年の任期の館長のほとんどは司書資格がないのは以前から知っていたが、まさか、職員全員が・・・。実態調査をしたことがないので詳細は分からないが、自治体の多くは一般行政職として採用するので、その中にたまたま司書資格所持者がいるということであろう。

サービスの質の向上と維持に努めている図書館がある一方で、前述のようにものすごいことになっている図書館もあり、日本の公共図書館の格差はあまりにも大きい。

△日本の患者図書館もレベルは千差万別▽

21世紀に入り、日本の病院に担当者付き（ボランティアではなく）の患者図書館が全国的に増えてきたが、数千の病院数がある中で患者図

書館の普及率は未だ数パーセントに過ぎない。

一方、欧米先進国では中・大規模病院のほとんどには司書担当の患者図書館がある。

日本の患者図書館の担当者のほとんどは非正規の雇用契約であり、国立や県立などの患者図書館員は、3年で交代というのも珍しくなく、経験の蓄積ができてにくい。

非正規は研修のための出張がままならない。自主的に行うにしても遠隔地の場合は交通費がかかり、生活費を減らさなければならぬ。

一方で、医療者（医師や看護師など）のための図書館、つまり病院図書室または医学図書室と呼ばれるものが全国の病院に多数ある。担当者の多くが非常勤という点で患者図書館に似ているが、医療者たちは「自分たちのための」図書館という意識が強いので図書館担当者の研修支援に理解を示すところが多い。

患者図書館は患者や家族のための図書館、つまり医療者にとっては「間接的」なので必要性

患者図書館サービスを行う中で、一般向けの

健康医療情報データベースが日本にないためレファレンスに苦勞したことである。更に、院内の他の職種の専門性の高さを実感した。患者図書館司書も専門職としての知識と技術と意識の向上に努めることの必要性を痛感し、退職後に患者図書館担当者のためのツールとして「Web患者図書館」をインターネット上に公開し、また「患者図書館司書養成講座（図書館員のための医学講座）」も開始した。

^Web患者図書館^

患者図書館には一般教養書や娯楽書だけでなく、健康医療情報に関する文献も多数揃えている。つまり患者図書館は(1)公共図書館と(2)専門図書館(医療)の2つの機能を併せ持つ図書館に進化している。

文献の多くは素人向けの医学書・雑誌・新聞記事・視聴覚資料で占められる。収集やレファレンスサービスには当然の事として医学知識が必要である。しかも、医学は日進月歩なので研修の継続は必須である。

インターネットの時代には冊子体のツールよりも電子データベースの方が遥かに使い勝手が良いことを認識し、2004年から「Web患者図書館」を構築し医療関連の医学書、雑誌、新聞記事を公開し、データは2016年現在で

9万件に達した。

患者図書館担当司書の業務のために作られたこのデータベースは、公共図書館でもレファレンスに大いに活用されていることは喜ばしい。

特徴としては、(1)範囲は医学全般とその関連分野、つまり医療制度や介護問題など、(2)文献は公共図書館でも閲覧できる範囲のものも多く含む、(3)図書だけでなく、雑誌「きょうの健康」「がんサポート」、4大紙(朝日、毎日、読売、日経)、(4)検索機能、図書は書名、著者、出版者、目次、キーワード。雑誌はタイトルとキーワード、新聞は見出しとキーワード、(5)図書館員に質問しにくいこと、つまり排泄の悩みでは「尿漏れ」や「便漏れ」、性生活問題では「性感染症」(あるいは性病)、がんの治療後の後遺症としての性的不能での悩みでは「がん」「性生活」の検索語をそれぞれ入力すれば、現物を最寄りの公共図書館でも図書館員を介せずに直接書架に行つて目的のものを入手できる。雑誌の場合は、排泄と性の問題は多数の記事の中に含まれるので、他人に何を読むのかを知られることはない。新聞も同様で図書館担当者に質問することなく密かに必要な情報にアクセス可能である。Web患者図書館は利用者の気持ちまで配慮したデータベースと言える。

^患者図書館司書養成講座(図書館員のための医学講座)^

患者図書館司書は、当然の事として医学についての知識と関連文献についての知識を身に付けることが必要。そこで、2004年から講座として「医学概論」(担当は医師)、解剖生理学(担当は看護師)、患者図書館資料論(健康医療情報リテラシー論を私が担当)を、月1回の計5~6回のコースを実施している。当初の予想を超えて、患者図書館員だけでなく、公共図書館、医学図書館、看護専門学校図書館、学校図書館、大学図書館など多方面からの参加が見られる。2014年度は看護師自身の参加もあった。理由は自身が患者図書館の責任者になった場合を考えて、患者の欲求や心理を理解するためだという。ちなみに、患者図書館のカウンターには司書が詰めているが、司書が所属する部門の責任者は看護師であることと、患者図書館には専従司書と看護師(交代)が働いている病院もある。看護師の役割は、司書が回答できない「病気の悩み」などを担当する。

^おわりに^

患者図書館は患者の娯楽や癒しにとどまらず医療情報へのアクセス権をも保障する機関として病院ではなくてはならないものとの認識は広がりがつつあるが、法的根拠がなく予算化が難し

いため患者図書館の普及率は未だに低く、質の格差も大きい。

法律と予算に基づく患者図書館の実現には、患者図書館関係者だけでなく図書館全体、医療関係者、そして国民の理解と協力が必要である。

(きくち ゆう 日本病院患者図書館協会)



笠森お仙

平井 紀子

戸中に広まりをみせた要因は何であったのか。小唄の後半に「春信描く一枚絵」という歌詞がある。

小稿では、春信が描いた「お仙の茶屋」図1「註」をもとに、流行の要因とお仙を題材にした作品、お仙のファッションなどについて記す。

笠森お仙の人氣とその生涯

笠森お仙の生没年は、宝暦元年（文政一〇年（1751-1827）^{註2}）という説があるが、「不詳」と記述する文献も多い。

お仙は、江戸中期、江戸谷中の感応寺の西裏門際にある福泉院境内の笠森稻荷門前にあった「鍵屋」という水茶屋で一二才の頃から働いていた。

容姿端麗で評判も高く、美貌のお仙に一目会おうと、江戸中から人々が押し寄せ、笠森稻荷神社の参拝客が増えたという。

お稻荷さんに参詣して願い事をするときには、まず土の団子をお供えし、後日、願い事が叶ったら本物の米の団子をお供えするというのが慣習のようであった。だが願い事がなくても、お仙の顔を見たさに土の団子は売れて客が絶え間なかったという。明和二年（1765）、お仙一四才の頃、その美貌から「明和三美人」といわれた一人で、柳屋お藤、蔦屋お芳が挙げられている。なかでも評判の一番高いお仙は、鈴木春信

はじめに

江戸小唄に、『おせん』という曲がある。

〜鐘一つ売れぬ日もなし江戸の春

花の噂の高さより

土の團子の願（ね）ぎこことを

かけた淡茶のおせん茶屋

あたしゃ見られて恥ずかしい

掛行燈に灯を入れる

入相桜ほんのりと

白きうなじの立ち姿

春信描く一枚絵

（昭和一七年 詞：小林 栄、曲：春日とよ）

江戸時代は、時を表すのに鐘を鳴らした。めつたに売れない鐘でさえ毎日売れる程、賑わい繁盛している大江戸の目出度い新春の唄。江戸谷中の笠森稻荷神社に、願い事が叶うよう土の団子を奉げる。笠森稻荷神社の門前には、噂の高い美人のお仙が居る水茶屋がある。参拝客は茶

屋で、出し過ぎて味が濃く渋くなった茶を狐さんにかける。「あたしゃ見られて恥ずかしいー」集まる人々を眼にしてお仙は恥ずかしそうに照れる。陽が落ち夕暮れせまると、茶屋の入口には行燈が掛けられて灯が点る。町内に咲く満開の桜が、灯に揺らめき影となり、お仙の白いうなじが、くつきりと映し出されたその姿は、晴信が描く一枚絵の美人画である。

『おせん』は「笠森お仙」という実在した人物で、江戸の中期、江戸谷中の水茶屋で働いていた美人の看板娘である。お仙は、庶民階級の市井の町娘であったが、浮世絵師鈴木春信（享保一〇年〜明和七年（1725-1770））の美人画のモデルとなり、その評判が話題にのぼり一躍人氣者となって江戸中を騒がせ、様々な社会現象を生み出している。お仙を題材にした戯作、流行り唄、手毬唄が生まれ、流行語も出現しており、長く歴史に残されている。お仙の話題が江

のモデルに選ばれ、錦絵「お仙の茶屋」は、その美しさから江戸中に知れわたった。当時、こんな流行り言葉や、わらべ唄、手毬唄が広まり長く唄われている。

♪めでたさは土の団子が米になり（流行り言葉）

♪向う横町のお稲荷さんへ 一銭あげて
ちよいと拝んで お仙の茶屋へ 腰をかけたら
渋茶を出して 渋茶よこよこ 横目で見たら
米の団子か 土の団子か お団子お団子この団子
子を 犬にやろうか 猫にやろうか どうとう
鶯にさらわれた（童唄・手毬唄）

お仙の出自を遡ると諸説あるが、文献等に多く見られる説を略述する。

家康が秀吉と戦った天正一二年（1584）の小牧山の戦いとき、瘡病（かさやみ）梅毒のような病気）に悩まされ、家臣の倉地甚左衛門が摂津の笠森稲荷に祈願したところ、たちまちに治った。江戸入府後、倉地家は感応寺の寺領を拝領し、ご利益のあつた笠森稲荷を摂津から境内に移して社務所と茶屋を置き、五兵衛という者を守り番にした。お仙はこの五兵衛の娘で、富くじなどで賑わう感応寺の門前茶屋で湯茶の接待をして、その美貌で人気を集め、春信の錦絵のモデルになったという。だが、春信の美人画に描かれ、江戸を風靡したお仙は一九才の頃

には「鍵屋」から姿を消し、茶屋には老齡の父が居るだけで、「とんだ茶釜が葉缶に化けた」美人の看板娘が禿げ頭に化けた」という流行唄が唄われた。お仙はこの年、幕府旗本御庭番で笠森稲荷の地主でもある倉地甚左衛門の許に嫁ぎ、七七歳の生涯を送ったといわれている。お仙の墓は、倉地家の墓である東京都中野区上高田の正見寺にあるとのことで、行ってみると、右手の奥に「お仙の墓」という案内板が立ててあった。

春信の描くお仙―江戸中期の庶民のメディアと浮世絵

江戸時代中期、享保より天明までは経済的に豊かになった商人を中心に庶民・町人文化が発展し、江戸文化が開花した時代である。歌舞伎、三味線などの遊芸が広まったのもこの期の特徴の一つである。

江戸の町が賑わいをみせると、庶民の間に起こる様々な出来事、火事、恋愛、心中などの事件は、庶民のメディアとして瓦版が登場する。「お仙」とんだ茶釜」も明和七年（1770）頃の瓦版に載り、胸元で帯をだらりと結び、茶釜から茶を注ぐお仙の姿が、唄の歌詞を背景に面白く描かれている。

春信のお仙の一枚絵は製作年不詳であるが、お仙の年齢から推測すると、明和三〜五年

（1766-1768）頃ではなからうか。春信は、図1の中判「お仙の茶屋」のほか、大判の「お仙の茶屋」など、お仙をモデルにした錦絵を数多く描いている。春信の描く美人は、細い目におちよぼ口の優しい楚々とした女性で、肉感的な表現はあまりない。モデルとなった女性は、吉原の遊女や名妓ではなく、店頭に出て客を応対する町娘であることが、庶民に好感をもたれたに違いない。

春信の「初摺」はかなり高価であったため、購買層は武士や大商人であり、江戸のみやげ物としても珍重された。版元を離れて摺られた「後摺」は、着物や帯の柄が大雑把に省略されて、安価になり大衆化していった。お仙は一枚絵のほかにも、絵草紙、お仙を染めた手ぬぐいまでも作られた。評判は、江戸から関東一円にまで



図1 春信画「お仙の茶屋」

広まった。

一介の美人町娘が戯作やわらべ唄に唄われ、名前を残したのは、洒落たもの、新規なものに興味をもち、それを受け入れた江戸中期の町人文化であったからであろう。そのメディアとなった浮世絵の力は大きい。錦絵の美人画は江戸ファッションの流行伝播の担い手となり、今日のファッション誌のような役割を果たした。浮世絵は、まさに江戸中期のメディア革新に繋がる力となった。

『鉛売土平傳』^{註3)}に見るお仙

明和期を代表する文人・狂歌師である大田南畝（寛延二〜文政六年（1749-1823））による滑稽本『鉛売土平傳』（明和六年（1769）序、「出版者不明」「出版地不明」）の挿絵には春信のお仙が登場する。

前半は、奥州出身の鉛売りの土平が江戸に鉛を売って行商する道中日記で、そのなかに、お仙のことが描かれている。土平は様々な趣向をこらし、奇抜な扮装で、おもしろおかしい市井の流行唄を唄い、浄瑠璃役者の声色、踊りなどを披露して歩くので、子供たちには楽しい見世物であり人気の的であった。お仙が登場するところは、

時はすでに暮れているが、春は陽が長く、

風暖かい。日暮らしの里笹森の鳥居は赤い夕日をいっぱいを受けている。土の団子のあとに米粉（しんこ）の白い団子を……。春風吹いて衣をゆるがせ花は散る。入り合いの鐘が響くが、参拝する人はいなく、さい銭箱に一群れの紫雲が下り、美女が天上から舞い降りて茶店の中に座っている。年は一六〇七才、髪は繻子のように光沢があり、赤い唇、長い櫛に低い下駄。・・・美しい目で往來の人を流し眼で見ている。

お仙のファッション

春信が描いたお仙の装いを江戸服飾史から観察してみよう。

この時代は木綿の生産が増加し、良質な木綿や木綿と絹を混合して織られた布など着物の素材は豊富であった。柄は江戸中期には落着きのある中柄、小紋や縞柄など地味なものが多く見られる。

図1のお仙の着物の柄は明瞭ではないが、無地のようで前身頃と袖に小さな模様があるように見える。地味で質素な衣装である。

町人は流行に敏感で、歌舞伎役者の衣装が町人の間でも流行し、影響を受け、柄や色など、しゃれたものはすぐに取り入れられた。その一つに名優たちの舞台姿から着物の模様、色では「路考茶」が流行り、鼠（グレー）、茶、藍とい

う地味で粹な色を基調にして、微妙な色の違いを数枚の着物と重ね組み合わせていた。お仙の着物も路考茶のようで、中に縞柄を合わせているようだ。縞柄には唐棧や八丈縞がよく着られた。着物の見頃の幅は広くゆつたりとしている。身頃は、「フキ」といって、着物の裏地を表地に吹き出させて、表と裏地の配色や模様を対照させて、洒落て見せている。

（註）

1. 図1. 『春信』（浮世絵大系2）集英社一九七五年（原色図版三四）
中判錦絵 26.7×20.3cm 落款「春信画」
製作年不詳
2. 『講談社日本人名大辞典』講談社二〇〇二年
3. 大田南畝著鈴木春信画『鉛売土平傳』『早稲田大学古典籍総合データベース』より。2016.5.17 閲覧

不在者の映画 いまここにいないあなたを想うこ とで私たちは繋がれる―是枝裕和と小津安二郎の 作品から

水谷 長志

「そして父になる」2013、「海街diary」2015（以下「海街」と略記）、「海よりもまだ深く」2016（以下「海よりも」と略記）と近年快進撃を続ける是枝裕和の作品について、「歩いてても歩いてても」2008（以下「歩いてても」と略記）と「海街」「海よりも」の三作と小津安二郎の「東京物語」1953とが親和性のあることを、「不在者」の映画の系譜と見立てて、考えてみたい。

「歩いてても」【作品解説】以下、是枝自身のサイトから引用 (<http://www.kore-edacom/index.html>)

夏の終わり、横山良多は妻と息子を連れて実家を訪れた。開業医だった父とそりのあわない良多は現在失業中のこともあり、ひさびさの帰郷も気が重い。明るい姉の一家も来て、老いた両親の家には久しぶりに笑い声が響く。得意料理をつぎつぎにこしら

える母と、相変わらず家長としての威厳にこだわる父親。ありふれた家族の風景だが、今日は、15年前に亡くなった横山家の長男の命日。何気ない会話の中に、それぞれの思いが込み出していく……。

「海街」【作品解説】

鎌倉で暮らす三姉妹、幸、佳乃、千佳の元に、15年前家を出ていった父の訃報が届いた。長い間会ってもいなかった父の葬儀のため山形に向かった三人はそこで異母妹すずと初めて会う。身寄りのなくなった彼女が、葬儀の場でどうしようもない大人たちの中で毅然とふるまう姿に、長女・幸は別れ際とつさに口にする。「すずちゃん……鎌倉にこない？ いっしょに暮らさない？ 4人で」。そうして鎌倉での4姉妹の生活が始まる――。

「海よりも」【作品解説】

笑ってしまうほどのダメ人生を更新中の中

年男、良多。15年前に文学賞を1度とったきりの自称作家で、今は探偵事務所に通勤しているが、周囲にも自分にも「小説のための取材」だと言いつつ、元妻の響子には愛想を尽かされ、息子・真悟の養育費も満足に払えないくせに、彼女に新恋人ができたことにショックを受けている。そんな良多の頼みの綱は、団地で気楽な独り暮らしを送る（筆者註・つまり夫、良多の父は亡くなっている）母の淑子だ。ある日、たまたま淑子の家に集まった良多と響子と真悟は、台風のため翌朝まで帰れなくなる。こうして、偶然取り戻した、一夜かぎりの家族の時間が始まるが――。

「歩いてても」は、「今日は、15年前に亡くなった横山家の長男の命日」がその舞台。長男は海で溺れかけた年下の他人の少年を救おうとして、少年は助かったものの長男が逆に溺死した。優秀だった長男に父（原田芳雄）は家業の医院を継がせようとしていたことが、伺える。絵画修復士であるらしいが、いまは失職の身の次男良多（阿部寛）は、父や母（樹木希林）から長男の話が出るたびに比較されているようで居心地が悪い。死んだ長男の面影は幽かにしか現れない。

「海街」は、三人の娘（綾瀬はるか、長澤まさみ、

夏帆)を置いて鎌倉の家を出た父と新たな女との間にできた娘(広瀬すず)と、母も家を出て、鎌倉に残された年上の三人の姉との交感を通じて、それぞれに異なる父親への記憶と想いが語られる。例えば、綾瀬が演じる長女幸は、映画の始まりでは、(父は)「やさしくて、ダメな人だったのよ」というのであるが、幕切れ近く、鎌倉の海岸を歩きながら、「本当にダメだったけど、やさしい人だったのかも。こんな妹を残してくれたんだから」と亡くなった父を受け入れようとしている。この父もまた面影は一切現れない。吉田秋生のベストセラーコミック「海街diary」の映画化。

「海よりも」は、自称作家の良多(「歩いても」と同じ名前で、同じく阿部寛)が別れた妻(真木よう子)と息子の信吾(吉澤太陽)とそれに母親(樹木希林)とで、台風の一晩をともに過ごし、台風一過の朝、妻と息子を見送りながら少しだけ前に踏みだそうと決める。張り込みの車中で、良多が、探偵事務所の後輩の町田(池松壮亮)に「高校の時何になりたかった?」と問い、「何も…」と答える町田に、「聞けよ」と言った良多自身の答えが、「地方公務員」。町田は「硬いっすね」と返した。死んだ良多の父もその面影は一切現れないが、方々に借金を重ねて、雪舟の偽物を掴まされたりするが、書道の手習いはあり高額の硯を遺すような、これもダメな父

親像が垣間見られる。良多はこの父親を嫌いながら、そして自分が父親に似ていることを認めながらも忌避し、その半面、別れた妻のもとで養育されて月に一度だけ会える息子が自分に似て文才があることを喜んでいる。

台風の夜中、良多が何気なく覗いた仏壇から線香立てを取り出し、その灰を掃除しながら、やはり眠れずに起きてくる母と会話する時、深夜放送のラジオから流れてくるのが、テレサ・テンが歌った「別れの予感」。その歌詞の一節がこの作品の題名「海よりもまだ深く」なのである。このシーンでの樹木希林の「なんで男は今を愛せないのかねえ」、「幸せってのはね、何かを諦めないといけないもんなのよ」と良多に向けて、自分に向けて語るセリフの演技が神がかったような一種「怪演」であり、のちに続く良多の「こんなはずじゃなかった」とともに、忘れられないシーンになっている。

ちなみに、「海よりも」の主題歌「深呼吸」はハナレグミ(永積タカシ)による。同曲のCDには、ハナレグミ版「別れの予感」が納められているが、こちらも絶品である。

「歩いても」の溺死した長男、「海街」の娘たちを鎌倉と東北の山形にのこして死んだ父、「海よりも」の息子からは似たくなかったと恨みを残される父、いずれもその姿は、写真すらにもほとんど現れないが、のこされていまを生きて

いる映画の登場人物は、「不在者」への想いを共有することで繋がれている。

このような「不在者」を想い、「不在者」について言葉を交わす人たちが織りなす映画といえ、小津安二郎の一貫する映画群に見て取れる。これは多くの小津論に現れる指摘であるし、その典型は「東京物語」であろう。戦死した次男昌二の嫁(原節子)が、尾道から東京に出てきた両親(笠智衆と東山千栄子)を実子の兄妹に代わって面倒をみて、尾道に戻ってまもなく義理の母が亡くなり、一人身になった父を出来る限り長く身の回りの世話をして、そして東京へ帰って行く。

北鎌倉が舞台の「麦秋」も次男の省二を戦争で亡くしている。鎌倉を舞台にした「海街」の父の死、明示はされていないが葉山、横須賀、平塚らしい「歩いても」の長男の死、そして「海よりも」の父の死、「不在者」をめぐって進行する是枝のこれらの作品は、小津の「東京物語」に代表される「不在者」の映画の系譜を持つものであることは、かなり確からしいように思われる。

山田洋次は2013年に小津の「東京物語」へのオマージュとして「東京家族」を監督した。広島から上京する老夫婦は橋爪功と吉行和子。東京では、長男家族と長女とその夫、そして「東京物語」では戦死した次男に代わって、

舞台美術のアシスタントをする「生きている昌次」（妻夫木聡）が恋人紀子（蒼井優）とともに迎える。ここには「不在者」はいない。「東京物語」と一番の違いであり、ある意味、陰影を深めることは意図的に回避されている。この作品が2011年の3.11の東日本大震災の直後に予定されていた撮影を一年先延ばししたものであることを知ると、次男を生かして、被災地でのボランティア活動を通じて紀子を得たと設定することが、このいまの日本を、「東京物語」の構図において描くにはふさわしいものとした、山田洋次監督の判断は正しいのである。「東京物語」は、敗戦の1945年から8年の時間を隔っていたのだから。

このように「不在者」の映画として是枝と小津の映画を見てきたが、「不在者」の文学であるならば作例は枚挙にいとまがないことだろう。

例えば、夏目漱石「ころ」のKもまた、先生とわたしの間に佇んで離さない「不在者」である。しかしながらKは先生とわたしの三者のうち閉じられている。「いまここにいないあなたを想うことで私たちは繋がれる」という構図は決して描かれない。それはやはりKの死のありよう、自死に因るものではないだろうかと思ふ。

是枝の三作も小津の右に挙げた二作も、死は

それ自体の悲しみは深く深くあるのであるが、その死を語ることは少なくとも「家族」の間では忌避されていない。そこに二人の監督の「不在者」の映画が持っている、ある種の救いを見ることが、当然のことであるのかもしれない。

碓井広義「平成の小津映画」と呼びたい、『海街diary』の心地よい時間

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/usuhirotyoshi/20150708-00047330/>

ナドレック『「東京家族」「東京物語」とこんな違う』

<http://movieandtv.blog85.fc2.com/blog-entry-390.html> なぶを参照。

編集後記

「ふおーらむ」13号をお送りします。

新オフィスへの引越という山場が一段落して、今年も9月に夏休み旅行に出ました。廃線が決まったJR 三江線を経由して、「明治日本の産業革命遺産」になった萩から、広島に立ち寄りました。

折しも広島東洋カープが25年振りのリーグ優勝を決める2日前だったので駅も街も異様な興奮に沸き返っていました。地域全体が目に見えて盛り上がっていく様はとても新鮮で、滅多に味わえない良い体験でした（あまりの熱狂ぶりに直前のキャンセル待ちでしかホテルが取れないのには、さすがに参りましたが…）。

またパ・リーグも土壇場大どんでん返しの北海道日本ハムファイターズの逆転優勝、サッカーでもレスター・シティのプレミアリーグ奇跡の初優勝など、今年のスポーツ界は「神ってる」が象徴する流行語となりそうです。

翻って図書館界は、それとは反対の地道な活動の積み重ねですので、重要性のわりに社会や行政へのアピールの点で少々損しているのかなという感は否めません。表彰やPR活動を通じて、もっと注目される機会を増やしていければよいのですが。「神って」みたい。
(岩本)

今年の夏は聖岳・赤石岳縦走を計画していましたが、聖岳ピストンのみになりました。日々のウォーキングだけで、体力増強を怠けたためです。聖岳山頂で南アルプスの主峰・赤石岳を終日眺めていました。ワインも一本空け、リッチな山旅でした。

仙丈ヶ岳・北岳・赤石岳が好きで、いろんなヴァリエーションルートを試みましたが、特に記憶にあるのは、赤石沢を北沢手前のダムまで遡行したこと。それ以上は僕の力量をはるかに越えていました。天下の銘溪難谷と言われる由縁でしょう。

赤石岳の百間平で一週間の別荘テント生活が夢です。いつか実現したいですね。
(森本)

ふおーらむ 第13号

2016年9月30日発行

発行人 山崎久道
製作 森本浩介／岩本謙一／尾崎みやま／赤田麻衣子
発行所 図書館サポートフォーラム
〒140-0013 東京都品川区南大井 6-16-16
日外アソシエーツ(株)内
TEL.03-3763-5241 FAX.03-3764-0845
http://www.nichigai.co.jp/lib_support/index.html

